

組合員の方の話

わたしたちの『野尻地区しいたけ生産組合』では、共同の施設で、共同で働き、売り上げも平等に分けるといいうしくみを取り入れています。

このしくみの良い点は、安心して農作業ができることです。これまでのように、栽培が各家庭ごとに行われていると、家族が病気になったときなど農作業がとてもむずかしくなってしまいます。しかし、この組合のしくみのもとでは、病気で作業ができない人がいても他の人が助けてくれるので、心配はいりません。また、組合員の間で計画を立て、長いまとまった休暇をとることもできるという良い点もあります。



宿根かすみ草の栽培

昭和村で初めて本格的にかすみ草が栽培されたのは昭和59年のことでした。かすみ草は、全国いたるところで栽培されていますが、昭和村のかすみ草は、雪のように白く、一つ一つの花が大きく、それに、枝が太いという特長があります。ですから、花びんに生けたり花束にしたとき、とてもボリュームがあるので、人気が高いのです。

こうした特長を支えているのは、昼と夜との気温の差が大きいという気候であることと、矢ノ原高原のような標高の高い所では気温が比較的低温に抑えられていることがあげられます。

昭和村でかすみ草が栽培され始めたころは6軒しかありませんでしたが、今では82軒の農家が取り組んでおり、昭和村産のかすみ草も広く知られるようになりました。農業生産額においても、これまでの稲作をぬいて第1位の生産額を上げるようになっていきました。また、昭和村のすべての農業生産額の半分以上をかすみ草をはじめとする花卉栽培